

## 第1学年算数科学習指導案

児童 男子2名 女子4名 6名  
指導者 熊谷陽子

### 1 単元名 「10よりおおきいかず」

#### 2 単元の目標と評価規準

- (1) 40までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解したり、40までの数を数え数字を読んだり書いたり、20までの数の構成を加法や減法の式に表したりすることができる。 **【知識及び技能】**
- (2) 10のまとまりに着目し、40までの数の数え方や読み方、書き方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して、20までの数の繰り上りや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現したりすることができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。 **【学びに向かう力、人間性等】**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすることができる。 ② 2位数の表し方について理解している。 ③ 数を十を単位としてみるができる。 ④ 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すことができる。 ⑤ 「10が幾つ」や「10とあと幾つ」という数の見方などを用いると、簡単な場合について、2位数などの加法及び減法ができることを知っている。	① 2ずつや5ずつ、10ずつなどの数のまとまりを用いて、数の数え方を考えている。 ② 「10とあと幾つ」などの数の見方を用いて、数の比べ方を考えている。 ③ 和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。	① 身の回りにあるものの個数や順番に親しみ、大きさを比べたり数えようとしている。 ② ものの個数や順番を数を用いて表すことで、日々の生活が効率的になったり豊かになったりするというよさに気付いている。

### 3 単元について

児童は、第1単元「なかまづくりとかず」の学習で、数のまとまりに着目し、10までの数の構成と表し方を学習した。1位数どうしの加法・減法の学習においては、場面を捉えてブロックや図を用いながら立式し、答えを求める学習も意欲的に行った。

本単元にかかわるレディネステストの結果から、20までの数の記述の仕方がわからない児童が4名いた。本単元では、「10といくつ」という数の見方をブロック操作を通して丁寧に行うことで数の構成を確実に身に付けられるようにしていきたい。

#### 【単元を通して働かせる見方・考え方】

本単元では、数のまとまりに着目しながら、数範囲を10から40まで拡張し、数の構成と表し方を考える。2位数については、10のまとまりの個数と端数ととらえることを基にして表されていることを理解し、生活の中で実際に数を使うことで、数を使うよさを感じ、数についての感覚を豊かにしていく。さらに、「10といくつ」という20までの数の構成を和や差でとらえ、既習の加減計算を活用して式に表現することによって、20までの数についての理解を確実なものにする。

#### 【伝え合い、深め合う対話】

第1小単元では、数のまとまりに着目し、「10のまとまりといくつ」という構成になっていることをとらえ、ブロックや数字で表す活動を通して20までの数の構成と表し方について一般化し、統合的な理解を図りたい。

第2小単元では、20までの数の構成に基づいた加法と減法の仕方を考えていく。ブロックや図、式などを用いて「10といくつ」に分けたあと、ばらを計算すると答えを求められることを確かめ、話し合う対話を設定することで「10といくつ」という数の構成に着目して既習の加減計算をすればよいことに気付くようにしたい。

4 指導と評価の計画（10時間）

小単元	時	目標の3M 【数学的な見方・考え方を働かせ】 【数学的活動を通して】 【数学的に考える資質・能力を育成する】	活用したい言葉	評価規準・評価方法		
				知	思	態
1	1	○「10といくつ」の数の見方に着目し、 ○身の周りの事象を実際に数える活動を通して、 ○数の数え方や唱え方を理解し、数えることができる。	・10のまとまり ・10といくつ ・10と3で13	・知②③④ ノート分析		・態① 行動観察 ノート分析
	2	○「10といくつ」の数の見方に着目し、 ○ブロック操作や数を唱える活動で表現することを通して、 ○数の読み方や書き方を理解することができる。	・10のまとまり ・10といくつ ・20までの数を ・どれも「じゅう」 ・「じゅう」のところは「1」	・知②③④ ノート分析		
	3	○数のまとまりで数えるよさに着目し ○身の回りの事象を工夫して考える活動を通して、 ○20までのものよりよい数え方を説明することができる。	・5ずつ数えるとはやい ・2ずつ数えるとはやい ・どれも10といくつ		○思①② 行動観察 ノート分析	
	4	○「10といくつ」の数の見方に着目し、 ○かかっている数をブロックを用いて確かめる活動を通して、 ○20までの数の構成を理解することができる。	・13は10と3 ・14は10と4	○知②③ ノート分析	・思② 行動観察 ノート分析	
	5	○20までの数を数直線に表せることに着目し、 ○すごろくとの共通点や相違点を考える活動を通して、 ○数直線を用いて数の大小を比較することができる。	・1つずつ数が大きく ・数の間が同じ長さ ・右の数が大きい ・左の数が小さい		・思② 行動観察 ノート分析	
	6	○数直線の特徴や性質に着目し、 ○数直線で数を表したり、読み取ったりする活動を通して、 ○20までの数の大小や系列を理解することができる。	・右にいくと数が大きく ・左にいくと数が小さく ・2とびで数える ・5とびで数える	○知① ノート分析		
2	7	○20までの数の構成と和や差に着目し、 ○計算の仕方をブロック操作や図で確かめる活動を通して、 ○20までの数の構成を加減計算の式に表せることを理解することができる。	・10と5で15 ・15は10と5 ・15から5を引くと10 ・10といくつでたしざん・ひきざん	・知③⑤ ノート分析	・思③ 行動観察 ノート分析	
	8 本時	○20までの数の構成と和や差に着目し、 ○計算の仕方をブロック操作や図で確かめる活動を通して、 ○計算の仕方を考え、説明することができる。	・10はそのまま2に3をたす ・10と5で15 ・10はそのまま5から3をひく ・10と2で12 ・ばらを計算する	・知③⑤ ノート分析	○思③ 行動観察 ノート分析	
3	9	○40までの数を10のまとまりに着目し、 ○身の周りの事象を数える活動を通して、 ○日常生活の中にある数を見出したり、用いたりしようとする態度を育てる。	・20といくつ ・10が3こで30 ・「10がいくつ」「ばらがいくつ」	・知③④ ノート分析		・態①② 行動観察 ノート分析
	10	○単元の振り返りを行う。		○知①～⑤ テスト	○思①②③ テスト	

5 本時の指導（8時間目／全10時間）

(1) 目標

- 【数学的な見方・考え方を働かせ】 20までの数の構成と和や差に着目し、
- 【数学的活動を通して】 計算の仕方をブロック操作や図を用いて確かめる活動を通して、
- 【数学的に考える資質・能力を育成する】 計算の仕方を考え、説明することができる。

(2) 本時伝え合い、深め合う対話

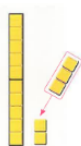

【手立て①②】

検討する場面において、「10といくつ」に分けた後、ばらの数を計算すればよいことに気付くことをねらいとし、友達の考えに付け足したり・質問をしたり、考え方の共通点を話し合ったりする対話を設定する。

【手立て③】

問題②を解く場面で、引き算の場合でも足し算のように「10といくつ」の数の構成で捉えると既習の加減計算で答えが求められるという統合的な見方を働かせ、友達と対話をするを通して理解を確実なものにする。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 評価
つかむ ・見通す 5分	<p>1 問題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             ① <math>12 + 3</math>      ② <math>15 - 3</math> </div> <p>○これまでの学習との違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左側が10じゃない。</li> <li>・10といくつで答えが出せない。</li> </ul> <p>2 課題を捉える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             ③ けいさんのしかたをかんがえよう           </div> <p>3 見通す</p> <p>○何を使って考えたいかを出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック    ・さくらんぼ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の計算問題（<math>10 + 5</math>、<math>15 - 5</math>）を全員で振り返り、「10といくつ」に分けて考えたことを確認した後、本時の問題に出合わせる。前時の計算と違うところに着目させる。</li> <li>・前時の「10はそのまま」という考えが使えるかを確認することを伝える。</li> <li>・答えを聞いてみて、それが本当に合っているかを確認することとする。</li> <li>・はじめに①を全員で考えることを伝える。</li> </ul>
自力解決 5分	<p>4 自力解決をする</p> <p>○ブロック    ① <math>12 + 3</math>                      ○さくらんぼ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、全員でブロックの並べ方やさくらんぼの分け方を確認する。どんな並べ方がよいかは児童に尋ねる。その後、自分の考えでやってみる。</li> </ul>
検討する 23分	<p>5 全体交流</p> <p>○答えの求め方を全体の場で説明する。</p> <p>ブロック → さくらんぼ</p> <p>○それぞれの考えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの考えも10はそのまま。</li> <li>・ばらの2に3をたしている。</li> <li>・10と5で15になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックは、式を話しながら動かすようにする。</li> <li>【手立て①②】</li> <li>検討する場面において、「10といくつ」に分けた後、ばらの数を計算すればよいことに気付くことをねらいとし、友達の考えに付け足したり・質問をしたり、考え方の共通点を話し合ったりする対話を設定する。</li> <li>・発表した児童のネームプレートを貼り、ふりかえりの際に生かせるようにする。</li> </ul>

	<p>6 自力解決</p> <p>○② <math>15 - 3</math> をペアで考える。</p> <p>○たしざんのやり方が引き算でも使えるかをペアでやってみる。ブロックの後にさくらんぼでもやってみる。</p> <p>7 答えの求め方を全体場で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック→さくらんぼ</li> </ul> <p>○それぞれの考えについて話し合い、<math>12 + 3</math> や <math>15 - 3</math> のような計算のやり方の共通点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらのやり方もばらの5から3をひいている。</li> <li>・10はそのままばらを計算するとよさそうだ。</li> </ul>	<p>・たしざんと同じようにばらの数に着目してできるかを確かめる。</p> <p><b>【手だて③】</b></p> <p>問題②を解く場面で、引き算の場合でも足し算のように「10といくつ」の数の構成で捉えると既習の加減計算で答えが求められるという統合的な見方を働かせ、友達と対話をするを通して理解を確実なものにする。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。</p>
<p>まとめ める 5 分</p>	<p>8 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>④ 10とばらにわけてけいさんする</p> </div>	<p>・板書をもとに、本時の学びを整理し、<math>12 + 3</math> や <math>15 - 3</math> のような計算は、10はそのままばらの数を計算すると求められることを確認してまとめとする。</p>
<p>ふり 返 る 7 分</p>	<p>9 適用問題に取り組む</p> <p>○教科書5の問題に取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>① <math>14 + 3</math>      ② <math>17 - 5</math></p> </div> <p>10 学習のふりかえりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の良かった考え・友達の考えで納得したこと</li> <li>・分かったこと・できるようになったこと</li> <li>・次の学習や生活に生かしたいこと</li> </ul>	<p>・10をわけて計算する方法を書くプリントを用意し、評価に生かす。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。</p> <p>・文章での記述はまだ難しいため、ノートには顔マークを書かせ、口頭で発表させる。</p>

(4) 板書計画

④ ①  $12 + 3$     ②  $15 - 3$

⑥ けいさんのしかたをかながえよう

⑤ 10とばらにわけてけいさんする

みとおし

- ・ブロック

①  $12 + 3$

ブロック      さくらんぼ

$12 + 3 = 15$

②  $15 - 3$

ブロック      さくらんぼ

$15 - 3 = 12$

- ・さくらんぼ